

「芸術文化の育成・振興の進展に期待する」



財団法人 日本チャリティ協会
理事長 高木 金次

このたび『障害者アート推進のための懇談会』が開催されたことは、まことに時宜を得ていると思う。今世紀、現代アートの著しい台頭の中で特に障害者アートを含め『アウトサイダーアート』など特異な作品に注目が集まっているようだ。

そしてこのテーマを福祉を管掌する厚生労働省と文化芸術を統轄する文部科学省という立場の違う両省が連携して取り組むということはきわめて大きな意味をもっている。「福祉は文化である」を旨として事業展開している私ども日本チャリティ協会にとっては福祉の土壌の中で芸術・文化が論じられることには深く関心を寄せるとともに心強くその成り行きを期待するものである。またこのように積極的に国が行動するということは国内的にはもちろんのこと、国際的にも高い評価を得るものと信じている。

かつて日本の福祉は国際社会において遅れをとっていたが、やがて戦後の経済成長を追い風に先進国を凌駕するまでになり、医療・経済・生活とこれに伴う諸制度を充実発展させてきた。ところが文化面における障害者福祉は、ややもすると見落とされがちになってきたが、スポーツ面においては近年パラリンピックの隆盛にみられるように暗いイメージを明るく逞しいものへと変えつつある。

他方、障害者アートについては、昭和三十年代に早くも山下清の天才的作品が着目され、高く評価されていたが、これに対して美術界が歓迎的ムードでなく、またあまりにも物語性が強烈でイメージだけが先行し、作品の本質までは吟味されずに今日に至っている。

私どもの協会は創立四十年余を数えているが、発足当初より「福祉は医療・施設・生活援助とともに文化を大切にすべきだ」を提唱し、とかく行政の手薄になりがちな障害者の芸術・文化の育成拡大に力を注いできた。

早くから障害者を対象にしたカルチャースクールを創設、美術展の開催、活動助成金の交付など一貫した事業を二十年余にわたり実施。長年にわたって障害者のアートに対する認識・技術・作品等の移り変わりをつぶさに体験してきている。そして活動の要諦である障害者の自意識、家族やこれを取り巻く地域や社会環境の状態を包括して考えた場合、残念ながらまだまだ前途遼遠ながらもアートに対する気運は日々着実に上昇していると確信している。

こうしたおり、本席のテーマである『みんなが隠れた才能を持っている』が議論されるということは絶好のタイミングである。なお考慮しておきたいことは、障害者アートを論じる場合、結果だけが突出して語られることである。そして作品の出来栄や価値のみが先行し、表現や技術ばかりが評価され、肝心の作者が不在となり、その声や心が無視されることが心配される。

また、当然のことながら作品が生まれるための動機があり背景があることも十分留意するべきであろう。なお、本席では障害を知的・精神にしぼって論議したので一応方向が定まったが、本来、障害者アートを論じるならば当然障害の種別、アートのジャンル、多種多様にわたる技術や表現をすべて視野に入れて語るべきと思われる。が、現実には大変にむずかしいことであろう。

私どもの協会では目下、障害別による感性と表現に深く関心を寄せ、これまでの知的・精神・肢体等によるアートに加え、先般は全盲の方の書展、アジア七カ国のろう啞の方の絵画展を開催し、それぞれのもつ特性の抽出と研究を試みている。

なお本席で論じられた障害者アートに対する今後の活動の要点は、障害者の積極参加と底辺の拡大に加え、才能開発と育成・向上、併せて作品の発掘と芸術性の評価を確立するとともに、就労の機会が開かれることによって、なおいっそう社会的アピールを図ることができるであろう。そのためには引き続き官民協同し、きめ細かい作業と行動を希求する。

なお、私どもの協会は本席の経験を通じ、四十年余にわたって手がけてきた諸事業を総括するとともに、新たなる指針を得る機会になったことはまことに有意義であった。また、障害者アートを推進するにあたり、これまで手つかずになっていた事業の隙間を埋める活動に取り組むとともに目的を共有する機関・組織・団体に加え、斯界の有識者などとの情報交換と連立行動を密に積極的に実践していきたい。

そして、従前の『障害者アート』が障害者の自己表現であり、生きがいであり、社会参加の促進の域にとどまっていたものに加え、その意識と情熱により、一段と芸術性をたかめることによってアートの心のやさしさをもって福祉と社会との絆をいっそう深めることを期するものである。

【財団法人日本チャリティ協会】

住 所：〒160-0003 東京都新宿区本塩町1-7 千陽ビル5F

連 絡 先：03-3341-0803

ホームページ：http://www.charitykyokai.or.jp/